

cafe-ma-no

丹波市柏原町母坪402-1

hashtag
#北近畿

〔営業時間〕 午前11時～午後6時
〔定休日〕 木・金曜
〔連絡先〕 0795・71・4110

丹波市柏原町母坪で「cafe-ma-no(カフェ・マノ)」などを営むKITAYA合同会社の代表社員で、パリストタ兼、パティシエの北信也さん(40)。2012年のカフェオープンからこの間、コーヒーシュレといったオリジナル商品の製造販売を始めたほか、鹿児島県の屋久島に月1回だけオープンする屋久島店を出店。更

今より少し面白い世界を

に丹波のカフェ本店1階ではコンセプトホテルやシェアキッチンを用意した起業塾を開業するなど、様々な形で事業の多角化を進める。その根幹にあるのは「自分の子どもや孫の世代になった時今より少し面白い世界を作りたい」という思いだ。
東京都生まれで三田市育ちの北さん。神戸の洋菓子店でパティシエとして働いたあと、コーヒー店にパリストタとして勤め

シェアキッチンを備え起業塾としても使われるSOOL内部と北さん(写真はいずれも丹波市柏原町母坪)



た。気に入る物件が見つかった丹波市で起業。カフェの内装は、多くの友人らの協力

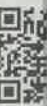
もあって自らリノベーションした。

4月から9月までの期間限定で販売するコーヒーシュレ(二袋2400リットル入り税込み9800円)は、関西や関東で多店舗展開するスペシャルティコーヒー専門店(株)TAKA COFFEE(本社・神戸市)と共同開発した。
今年で販売10年目を迎えるが、半年で1万個を売る人気商品に育った。数年前から

hashtag KITAKINKI

真はいずれも丹波橋山

イン



提供

は丹波市商工会の支援も得て製造効率アップのための設備投資を行ったほか、昨年は東京で開催されたアジア最大規模のコーヒー展示会に出展。想像以上の反響があり、「OEM(相手先ブランドによる生産)として2社と契約がとれた」とするなど、ジンジャーシロップや「食べる生姜」といった他のオリジナル商品とともに事業の柱の一つに成長している。

一方で、21年にはカフェ併設で1日1組限定のホテル「HUBHOTEL KITAYA」を開業。「Do a Child(子どもをする)」や「泊まれる美術館」をコンセプトに、地元の実業家らとともに驚きとワクワクのアイデアが詰まった空間を造り上げた。



店舗の外観。中央にある木製の水車のようなものには「コロナ禍に様々な人たちが協力して作った巨大ピンコマシーンという

昨年4月には、同じくカフェ併設でシェアキッチンやポップアップストアとして活用できる「SOIL TAMBAY」を開業。起業に向けた学びの場として「まずは1回やってみる」をサポートする。これまでに10組ほどの利用があった。

北さんは「今やっていることが、すぐに自分たちに返ってくるとは思わなかったが、『楽しかった』という経験が世の中に増えていけば、好きなことにチャレンジできる世の中になる」とし、「カフェを入り口にして、ホテルで心を開いてもらい、起業塾が『やってみなはれ』ができる場所になれば」と語った。

〔四方〕

ホームページ



ホテルには子どもも大人もワクワクする仕掛けがいっぱいある